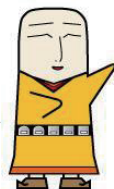


「知ってる？ 幡羅官衙遺跡」



No.7 カマドの神様

館^{たち}を区画する塀の外側からは、一辺が8 m近い大型の竪穴建物跡が見つかっています（普通は一辺4～5 m程度）。この建物は、館^{たち}で行われた宴^{たてあな}などに供された料理を作るためのカマド屋という厨房施設だったと考えられています。この建物内のカマド付近から、7 cm程の柱^{ちゅうじょう}状土製品が出土しました。出土時には気づきませんでしたが、きれいに洗うと線刻された優しい顔が現れ、表面は白く塗られていることがわかりました。この土製品は実用とは思われませんが、カマドに据える支脚^{しきやく}（五徳^{ごとく}のようなもの）とみられ、カマドの神様を表現したものと考えられます。同じ様な遺物は、全国でも他には千葉県内で出土した1例しかなく、大変貴重な資料です。ハラ君のモデルになったものです。



※館：国司や公的な使節などの宿泊所（はたら公民館3月号「No.5 貴賓の宿泊所」参照）

次回は『ハラ君の仲間たち』
です。お楽しみに！

